事例No.	1261
公表年度	R2
団体の属性	一般市
団体名	和歌山県田辺市

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・ICT

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

「熊野Reborn Project」

出典

令和２年度「関係人口創出・拡大事業」モデル事業調査報告書

(17) 和歌山県田辺市

事業名：「熊野 Reborn Project」

取組の概要

熊野の里山の維持・保全と地域産業の両立という地域課題解決に向けて、地域の暮らしや文化に関心の高い「低山トラベラー」を対象とした講座とフィールドワークを開催しアイデアを募集。

主な成果

体験プログラムの検討は４件、活動協力の意思表示者は 12 名といずれも目標値を達成。期間中も SNS 等を活用した情報発信や参加者の勤め先のメディアを使った本プロジェクトの紹介、クラウドファンディングによる地域への支援など、多様な形で地域に関わる姿がみられている。

①事業の背景・目標

1) 関係人口によって解決・改善を図りたい地域課題

・地域産業が衰える中、世界遺産「熊野古道」を抱える熊野の里山は荒れ始めており、熊野の里山の維持・保全と地域産業の両立が課題である。

2) 概ね５年後の地域の理想の姿

・本プロジェクト修了生を 50 名以上輩出。修了生と地域事業者によるコミュニティが形成され、定期的にオフ会を実施。地域事業者と修了生が協働し、移住や二拠点ワークスタイルで地域事業の直接的な担い手となる者も複数存在。

・関係人口のプラットフォームとなる WEB コンテンツが完成し、地域事業者と関わる体験プログラムが数多く募集されている。また、都市圏住民によるローカルな口コミ情報が次々とアップデートされる。

3) これまでに取り組んできた関係人口関連施策の実施状況・成果

・「田辺市熊野ツーリズムビューロー（以下、ビューロー)」が創設した「熊野古道女子部」による地域人材との交流

・グリーンツーリズムの拠点「秋津野ガルテン」による都市と農村の交流（農村体験、民泊など）

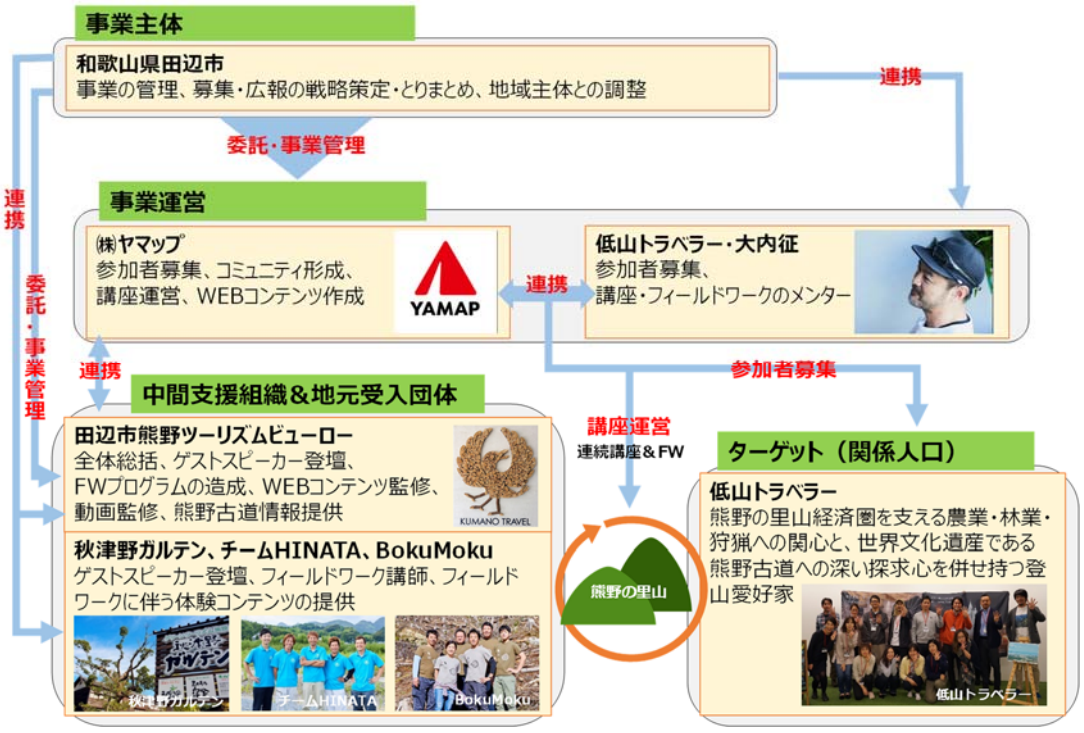
・内発型の人材育成に取り組む「たなべ未来創造塾」を核として、首都圏人材との交流を促進する「たなコトアカデミー」、首都圏企業若手職員研修「ことこらぼ」などの関係人口施策を連動

4) 今年度事業の目標

目標	・熊野古道へのリピートと地域課題解決に向けた地域事業者との継続的な関わり ・関係人口のプラットフォームとなる WEB コンテンツが完成し、講座参加者による口コミ情報がアップ、体験プログラムの具体的検討
成果指標	講座参加者によるヒアリング及び講座終了後のアンケートによる把握
目標値 （基準値）	体験プログラム具体的検討：2件（基準値：0件（2019 年度）） 熊野古道へのリピート：５名（基準値：０名（2019 年度）） 地域活動への協力の意思表示：５名(基準値：０名(2019 年度))

②事業実施体制

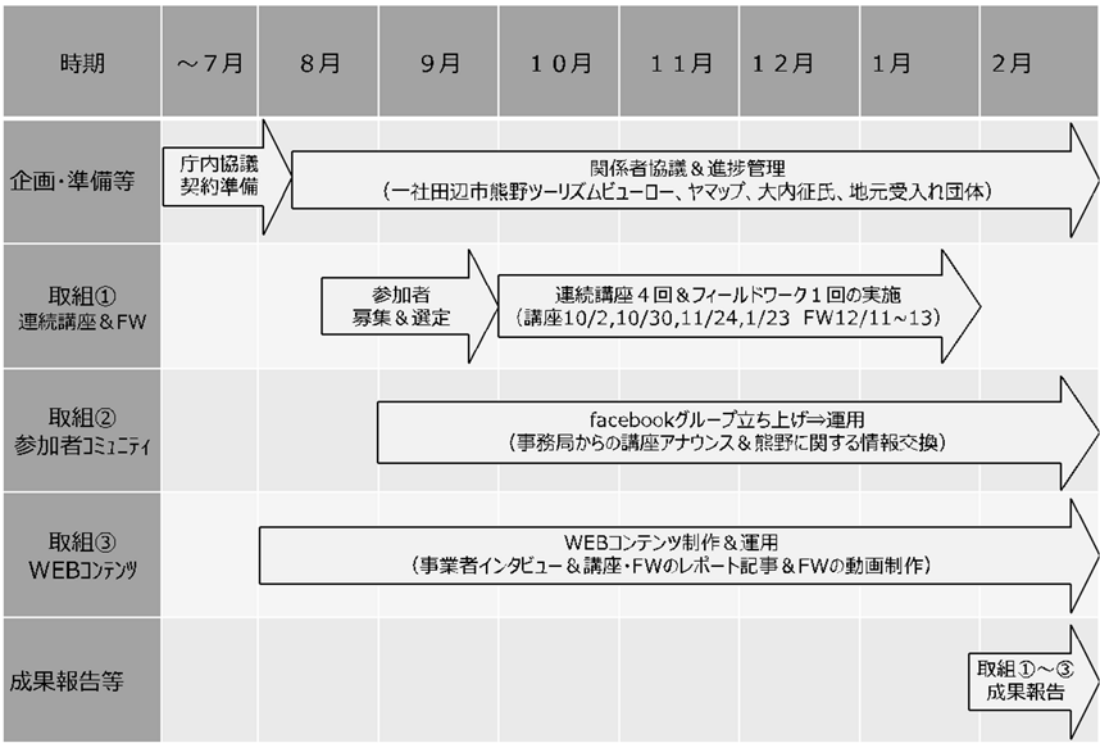
区分	団体・組織名称	役割
行政	田辺市たなべ営業室	事業の管理・募集・広報の戦略策定・とりまとめ・地元受入主体との調整
中間支援組織	田辺市熊野ツーリズムビューロー	全体総括、ゲストスピーカー登壇、フィールドワークプログラムの造成、WEB コンテンツ監修、動画監修、熊野古道情報提供
地元受入主体	秋津野ガルテン チーム HINATA BokuMoku	ゲストスピーカー登壇、フィールドワーク講師、フィールドワークに伴う体験コンテンツの提供
その他	ヤマップ 大内征氏	・参加者募集、コミュニティ形成、講座運営、WEB コンテンツ作成 ・参加者募集、講座・フィールドワークのメンター



③ターゲット設定とアプローチ方法

ターゲット層	アプローチ（情報発信）方法	期待する役割・関わり方
<u>地域の暮らしや文化に関心の高い低山トラベラー</u> 熊野の里山経済圏を支える中山間地域農業・林業・鳥獣害対策への関心と、世界文化遺産である熊野古道への深い探求心を併せ持つ層に絞る。	登山者150万人超が会員登録するコミュニティサービス「YAMAP」をベースに、低山トラベルの第一人者である「大内征氏」が有するコミュニティを通じて参加者を募集。またYAMAPサイト上に特設ページを設け、熊野の里山が直面する課題や地域事業者の取組を丁寧に紹介した上で、同社アプリの会員通知機能により募集を展開する	・熊野RebornProjectへの参加 ・熊野の景観の保全や地域の暮らしの維持・再生への継続的な携わり ・都会の視点から体験プログラムやアクティビティツアー・新商品の開発への関与 ・熊野に関わって得た口コミ情報をオンライン、オフラインを通じて発信

④事業スケジュール



⑤取組の内容

【取組1　連続講座とフィールドワークの実施】

目的と概要

・熊野の景観の保全と里山経済圏の維持再生につながるアイデアを創出するため、地域の暮らしや文化に関心の高い「低山トラベラー」を対象とした連続講座４回と現地フィールドワーク１回を開催した。

	開催日時	場所	内容
第１回	令和２年10月２日	ダイアゴナルラン東京（東京都）	熊野古道　悠久の歴史と「**観光**」の魅力を知る
第２回	令和２年10月30日	ダイアゴナルラン東京（東京都）	神々の森を再生し、未来につなぐ「**林業**」の最前線
第３回	令和２年11月24日	オンライン開催	滋味豊かな熊野の食を支える「**農業**」と「**狩猟**」の今を知る
第４回	令和２年12月13日～15日	フィールドワーク（田辺市内）	知る人ぞ知るプレミアムな**熊野に触れる**２泊３日の旅
第５回	令和３年１月23日	オンライン開催	熊野の観光に新たな息吹をもたらす！**アイディア発表会**

講座参加者

・低山トラベラー14 名

※YAMAP＆大内征氏コミュニティを通じて募集し、経営者、役者など幅広いバックボーンを持つ 78 名から応募があった

開催状況

・各回、地域事業者と共に熊野の里山利用のあり方について議論を深め、自分なりの熊野への関わり方を考えた。

成果等

・終了後のアンケートでは、田辺市への「再訪」「継続関係」「取組への支援・協力」そして「知人・友人への紹介」の各設問に対して、回答者全員から肯定的な回答が示されるなど、継続した地域との関わりが期待できる結果であった。



【取組2　参加者コミュニティの立ち上げ】

目的と概要

・講座参加者と地域事業者が気軽に相談できる場として、また事業終了後も双方が地域課題を共有し、その解決に向けて自走するコミュニティを形成するため、SNS を活用したプラットフォーム（熊野 Reborn Project プライベートグループ）を立ち上げた。

参加者

・31 名（講座参加者 14 名、地域事業者４名、スタッフ 13 名）

成果等

・本コミュニティにより講座参加者と地域事業者との直接的なつながりが構築された。また両者の関係性が深まるにつれ、気軽に熊野古道の話題や情報が投稿されるなど、今後の継続的なつながりが期待できる。



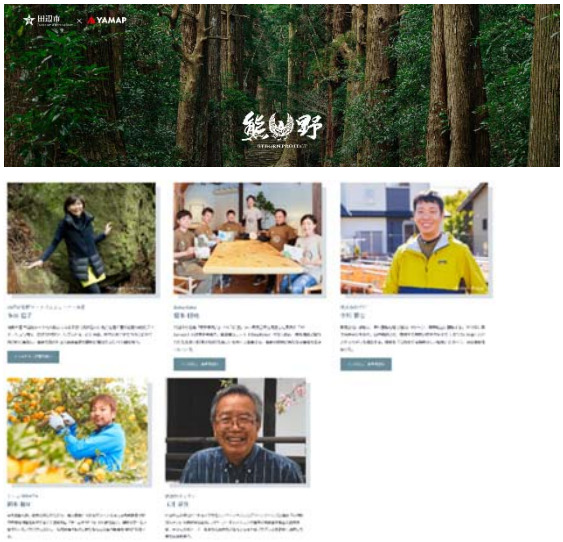
【取組3　WEB コンテンツの制作】

目的と概要

・本プロジェクトの取組に対する社会的な認知と理解を広げるため、取組１の実施状況を WEB 記事や動画などにコンテンツ化するとともに、日本最大級の登山者コミュニティサービス「YAMAP」上に設置することで情報の拡散を図った。

成果等

・登山者領域に強みを有する「YAMAP」のコミュニティ上に構築したコンテンツであることから、登山愛好家と地域事業者が協働する本プロジェクトへの社会的な理解と、都会に住みながら地域課題の解決に携わる関係人口の取組そのものへの理解が広がった。



熊野の里山を支える地域事業者の取組を丁寧に紹介



「YAMAP」上で発信することで情報を拡散

⑥事業成果

1) 取組ごとの成果発現プロセス

取組名		取組①連続講座やFWの実施	取組②参加者コミュニティの設立	取組③WEBコンテンツの制作
取組の結果（アウトプット）		・地域外からの講座参加者10名以上 ⇒ **14名**参加（役者、コピーライター、鑑定士など多様な人材） ・地域の支援者数延べ20名以上 ⇒ **延べ26名**から支援 ・商品開発アイディア２件以上 ⇒ **13件のアイディア提案** ・メディア報道回数３回以上 ⇒ **10回**報道（紀伊民報、毎日新聞、ライフルホームズ） ・参加者コミュニティの形成 ⇒ **熊野RebornProjectプライベートグループ**（facebook）		
取組の成果（アウトカム）	関係の創出・深化に関する成果	・講座参加者の７割が「また来たい」との意向を表明 ⇒ **９割（12/13名）** ・地域の支援者の５割が「継続して協力したい」との意向表明 ⇒ **９割（12/13名）** ・田辺の魅力について、知人・友人に広めたいか ⇒ **９割（12/13名）** ・講座参加者の５割が地域事業者と直接的なつながりを構築 ⇒ **10割（13/13名）** ＊アイディア発表会に参加した13名にアンケートを実施（回答12名、未回収１名）		
	地域にもたらされた成果	・「外」視点を通じて地域の良さを再認識 ・SNSやウェブ媒体を通じた情報発信 ・フィールドワーク終了後も**13名中 ７名**の講座参加者が地域に滞在（熊野古道の残り区間を踏破） ・ヤマップ×地域事業者で新規プロジェクトがスタート ・地域活動への支援（クラウドファンディング支援や市食材の購入、SNS等の情報発信）		
今年度事業の目標達成状況		【今年度事業による目標達成指標（指標の実績値】 ・体験プログラムの具体的検討２件以上 ⇒ **４件** ・地域活動への協力表明５名以上 ⇒ **12名**		

2) 本事業全体を通じた成果

・参加者は、役者、コピーライター、鑑定士など、幅広いジャンルと多彩なバックグラウンドを併せ持つメンバーがほとんどであり、その多面的な視点と深い洞察力からもたらされたアイデアは、独創的かつユーモアに溢れた新しい価値の創出につながりそうな提案ばかりであった（アイデアの事業化に向けて本プロジェクト参画メンバーとも協議していくとともに、事業化の際には発案者もプロジェクトに参画してもらうことも検討していく）。
・期間中もSNS等を活用した情報発信や参加者の勤め先のメディアを使った本プロジェクトの紹介、クラウドファンディングによる地域への支援など、多様な形で地域に関わる姿がみられ、事業終了後の継続的な関わりが期待できる。
・座学３回を経たあとでのフィールドワークだったこともあり、13名中７名の講座参加者が現地に留まり、熊野古道・中辺路の未踏区間を踏破した。
・ゲストスピーカーとして登壇した林業事業者の取組に共感を抱いた参加者が、約１週間インターンシップを経験。現地で林業に従事することで、熊野の里山に関して理解を深めることができた。こうした事例は都市圏と地方圏をつなぐ新たな関わりと捉えることができ、他の参加者にも熊野への関わり方の好例として示すことができた。
・同様にヤマップと地域事業者の間でも熊野の里山再生につながる新規事業が進められている。
・持続可能な地域づくりに取り組む「田辺市熊野ツーリズムビューロー」、「秋津野ガルテン」、「たなべ未来創造塾」の三者による受入体制の確保と登山者領域に強みをもつヤマップと大内征氏が連携することで、質の高い事業遂行と継続的な関わりが期待できる関係人口の創出につなげることができた。
・終了後のアンケート(12名)では、「今後田辺市を再訪したい」、「今後も田辺市に関わり続けたい」、「田辺市の取組みに対して協力・支援したい」、「田辺市の魅力を知人・友人に広めていきたい」のいずれの項目でも、回答者全員から肯定的な回答が寄せられるなど、プロジェクト終了後も地域との関わりを継続する意思が示された。
・参加者、地域事業者双方からプロジェクト継続を望む声があがったこともあり、来年度は市の単独事業として計画している。
・新聞やウェブメディアを通じて本事業が取り上げられたほか、講座参加者によるSNS上での情報発信により、地域課題解決型関係人口の社会的認知と理解の広がりとともに、次年度事業への参加意欲が高まった。
・事業終了した現在も講座参加者と地域事業者の交流が続くなど、継続した関わりが続いている。

⑦事業を通じた課題・気づき等

1) 事業の目標設定と達成に関する課題・気づき

・事業の継続と自走を見据えた際、今回のアイデア提案型から事業協働提案型の人材募集へ移行することも検討していく必要がある。

2) 事業の実施体制に関する課題・気づき

・プロジェクト始動前に現地で下見を行い、それぞれの役割分担の整理と役割に応じたオペレーションの確認ができたので、円滑な講座運営を行うことができた。またコロナ禍にあっても臨機応変に対応することができた。

3) ターゲット設定や募集・情報発信等に関する課題・気づき

・国内シェアトップの登山者コミュニティを運営する「ヤマップ」、そして低山トラベルの提唱者「大内征氏」のコミュニティを活用した募集告知により、意欲的かつ熱量の高い 14 名の参加者を確保することができた。

4) 各取組の実施・運営に関する課題・気づき

・本プロジェクトへの満足度は非常に高いものだったが、最後のアイデア共有会では自分ごと化への落とし込みができていない発表も一部見受けられた。運営側からの周知が行き届いていない点に加え、コロナ禍の影響によりオンラインへの移行やフィールドワーク中の懇親会の中止を余儀なくされたことが、少なからず影響しているのではないかと考えられる。

⑧今後の関係人口創出・拡大に向けた展望

1) 本事業の成果の今後の活用・発展方向について

・講座参加者から出されたアイデアの事業化にあたっては、講座参加者がプロジェクトチームの一員として参画していただくことを検討する。

・今年度の講座参加者には、第２期では、“先輩”としてゲストスピーカーやトークセッションへの登壇を担ってもらい、関わりを発展させていく。

2) 地域における関係人口への期待について

・これまでの関係人口施策を通じて、都市圏と田辺をつなぐ多様な関わりが生まれているところであり、ウィズコロナの中、オンラインとオフラインを活用したハイブリッド型の関係人口を創出していくことで、引き続き地域づくりの新しい担い手として期待される関係人口を創出していく。

3) 今後の関係人口創出・拡大に向けた政策等について

・より深い関係人口への進展が見込めそうな参加者には、首都圏関係人口養成講座「たなコトアカデミー」へ誘導し、さらに関係を深化させる。

・事業継続には地域課題の解決とビジネスの両立（CSV）の観点が重要であることから、常に次のステップを見据えるとともに、有機的なつながりを創出することで新たな価値の創造が期待できる。

4) 地域における持続的な受入の体制・仕組みについて

・関係人口の創出にあたっては、地域の魅力的な人や取組が重要であると認識し、内発型の人材育成事業「たなべ未来創造塾」を核とした地域住民と地域外住民との対流促進による関係人口の創出に努めてきた。今後、関係人口の発展を見据えた際、中間支援組織や関係案内人の確保は必要不可欠であることから、本事業に参画した事業者とも連携しながら取り組んでいけるよう努める。